

IV. 適用及び使用上の注意

1. 適用病害虫の範囲及び使用方法

1) グリホサートイソプロピルアミン塩 41%液剤(ラウンドアップ)

散布処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
果樹類 (かんきつ、 パイナップル を除く)	—	スギナ	収穫 7 日前まで (雑草生育盛期)	2000 mL/10a	少量散布 25~50 L/10a	3 回以内	—	3 回以内
		一年生雑草	収穫 7 日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a			
		多年生雑草		500~ 1000 mL/10a				
		つる性多年生 雑草 ササ類 落葉雑かん木	夏~秋期 但し、収穫 7 日前ま で(生育盛期以降)	1000 mL/10a	少量散布 25~50 L/10a			
かんきつ	—	スギナ	収穫 7 日前まで (雑草生育盛期)	2000 mL/10a	少量散布 25~50 L/10a	3 回以内	—	5 回以内
		一年生雑草	収穫 7 日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	—			
		多年生雑草		500~ 1000 mL/10a				
		つる性多年生 雑草 ササ類 落葉雑かん木	夏~秋期 但し、収穫 7 日前ま で(生育盛期以降)	1000 mL/10a	—			
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草	収穫 14 日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a	2 回以内	雑草 木 茎葉 散布	3 回以内
		多年生雑草		500~ 1000 mL/10a				
水田作物 (水田刈跡)	水田刈跡	一年生雑草	雑草生育期	250~500 mL/10a	少量散布 25~50 L/10a	1 回	—	1 回
		多年生雑草		500~ 1000 mL/10a				
水田作物、 畑作物 (休耕田)	休耕田	一年生雑草	—	250~500 mL/10a	—	2 回以内	—	3 回以内
		多年生雑草		500~ 1000 mL/10a				
水田作物 (水稲を除く)	—	一年生雑草	—	250~500 mL/10a	—	1 回	—	2 回以内
		多年生雑草		500~ 1000 mL/10a				
移植水稲	—	一年生雑草	耕起 10 日以前 (雑草生育期)	250~500 mL/10a	—	1 回	—	2 回以内
		多年生雑草		500~ 1000 mL/10a				
—	—	一年生及び 多年生雑草	湛水前 30~5 日 (雑草生育期) (不耕起栽培)	500 mL/10a	50 L/10a	—	—	—

1) グリホサートイソプロピルアミン塩 41%液剤(ラウンドアップ)(続き)

散布処理(続き)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
直播水稻	—	一年生雑草	耕起10日以前 (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a	1回	雑草木 茎葉散布	2回以内
		多年生雑草		500~1000 mL/10a	少量散布 25~50 L/10a			
		一年生及び 多年生雑草	耕起直後~出芽前 (雑草生育期) (乾田耕起栽培) は種30日前~ 出芽前 (雑草生育期) (乾田不耕起栽培)	500 mL/10a	少量散布 25~50 L/10a			
豆類(種実、 ただし、だい ず、らっかせい を除く)	—	畑地 一年生雑草	は種10日以前 (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	3回以内	雑草木 茎葉散布	2回以内
だいず			4回以内					
キャベツ			1回					
はくさい			1回					
だいこん			2回以内					
かんしょ			2回以内					
麦類 (小麦を除く)			3回以内					
小麦			3回以内					
さとうきび (春植え)			1回					
茶			2回以内					
花木	4回以内	春~夏期 但し、摘採7日前ま で(雑草生育期)	250~500 mL/10a	2回以内	2回以内			
桑		多年生雑草	発芽前 又は夏切後発芽前 (雑草生育期)			500~1000 mL/10a	4回以内	
牧草	牧野、 草地 (更新・ 造成)	一年生雑草	更新・造成の 10日以前 (耕起造成前) (雑草生育期)	250~500 mL/10a	2回以内	2回以内	3回以内	
		多年生雑草	は種10日前~ は種当日 (耕起整地後) (雑草発生揃期)	500~1000 mL/10a				
		一年生及び 多年生雑草	は種10日前~ は種当日 (耕起整地後) (雑草発生揃期)	250~500 mL/10a				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

1) グリホサートイソプロピルアミン塩 41%液剤(ラウンドアップ)(続き)

散布処理(続き)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
すぎ (下刈り代用) ひのき (下刈り代用)	—	ススキ、ササ類 クズ等の 多年生雑草 落葉雑かん木	雑草生育期 (5~6月)	500 mL/10a	少量散布 15~20 L/10a	3回以内	雑草 木 茎葉 散布	3回以内
林木	造林地 (地ごしらえ)		生育盛期以降 (夏~秋期)	1000 mL/10a	少量散布 20~30 L/10a			
樹木等	公園、堤とう 駐車場、 道路、 運動場、 宅地、 のり面、 鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a		植栽地を 除く 樹木 等の 周辺 地に 雑草 木 茎葉 散布	
		多年生雑草		1000 mL/10a				
		クズ等のつる 性多年生雑草 ササ類 落葉雑かん木	生育盛期以降	1000~ 2000 mL/10a	少量散布 25~50 L/10a			
		スギナ	生育盛期	2000 mL/10a	少量散布 25~50 L/10a			

塗布処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
かんきつ	—	一年生及び 多年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	3~6倍	3~6L/10a	3回以内	雑草茎葉 塗布	5回以内
りんご、なし、 かき、 ぶどう、くり、 もも								3回以内
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔		収穫14日前まで (雑草生育期)					2回以内
桑	—	ススキ、ササ類 クズ等の 多年生雑草 落葉雑かん木	雑草生育期	3倍	3L/10a	3回以内	植栽地を 除く 樹木 等の 周辺 地に 雑草 茎葉 塗布	4回以内
芝(ラフ等)								3回以内
すぎ (下刈り代用) ひのき (下刈り代用)								3回以内
樹木等	公園、堤とう 駐車場、道路、 運動場、宅地、 のり面、鉄道 等	一年生及び 多年生雑草	雑草生育期	3倍	3~6L/10a	3回以内		3回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

1) グリホサートイソプロピルアミン塩 41%液剤(ラウンドアップ)(続き)

注入処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数	
林木	林地	クズ	春期又は秋期	原液 又は 2倍液	1~2ml/株	-	株頭注入 処理	-	
		クズ・フジ等 のつる類	春期~秋期		つる径		使用量 (mL/株)		つる注入 処理
					2.0cm以下		0.5		
2.1~3.0cm	1.0								
3.1~4.0cm	1.5								
4.1~5.0cm	2.0								
		落葉雑草かん木 間伐する すぎ、ひのき	3~10月		1ml/ヶ所 樹径		立木注入 処理		
					ヶ所数				
					10cm以下				
					10~20cm				
					20cm以上				

極少水量処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
かんきつ	-	一年生及び 多年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	400~ 600 mL/10a	4~6 L/10a	3回以内	雑草木 茎葉散布	5回以内
りんご なし								3回以内
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔		収穫14日前まで (雑草生育期)					2回以内
樹木等	公園、堤とう 駐車場、道路 運動場、宅地 のり面等		雑草生育期			3回以内	植栽地を 除く 樹木等の 周辺地に 雑草木 茎葉散布	3回以内

2) グリホサートアンモニウム塩 41%液剤(ラウンドアップハイロード)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
果樹類 (かんきつを除く)	—	スギナ	収穫7日前まで (雑草生育盛期)	2000ml/10 a	少量散布 25~50 L/10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
		マルバツユクサ		500~ 2000ml/10 a	通常散布 50~100 L/10a			
		一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	250~500 ml/10a	少量散布 25~50 L/10a			
		多年生雑草		500~1000 ml/10a	少量散布 25~50 L/10a			
かんきつ	—	スギナ	収穫7日前まで (雑草生育盛期)	2000ml/10 a	少量散布 25~50 L/10a	3回以内	雑草茎葉散布	5回以内
		マルバツユクサ		500~ 2000ml/10 a	通常散布 50~100 L/10a			
		一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	250~500 ml/10a	少量散布 25~50 L/10a			
		多年生雑草		500~1000 ml/10a	少量散布 25~50 L/10a			
オリーブ (葉)	—	スギナ	収穫21日前まで (雑草生育盛期)	2000ml/10 a	少量散布 25~50 L/10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
		マルバツユクサ		500~ 2000ml/10 a	通常散布 50~100 L/10a			
		一年生雑草	収穫21日前まで (雑草生育期)	250~500 ml/10a	少量散布 25~50 L/10a			
		多年生雑草		500~1000 ml/10a	少量散布 25~50 L/10a			
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生及び 多年生雑草	収穫14日前まで (雑草生育期)	250~500 ml/10a	少量散布 25~50 L/10a	2回以内	雑草茎葉散布	3回以内
水田作物 (水田刈跡)	水田刈跡	一年生雑草	雑草生育期	500~1000 ml/10a	50~100 L/10a	1回	雑草茎葉散布	1回
水田作物、 畑作物 (休耕田)	休耕田	多年生雑草		250~500 ml/10a	通常散布 50~100 L/10a	2回以内	雑草茎葉散布	3回以内
水田作物 (水稲を除く)	—	一年生雑草	耕起20~10日前 (雑草生育期)	250~500 ml/10a	少量散布 25~50 L/10a	1回	雑草茎葉散布	2回以内
移植水稲			耕起直後~出芽前 (雑草生育期) (乾田耕起栽培)		50L/10a	2回以内		
直播水稲			は種30日前~出芽前 (雑草生育期) (乾田不耕起栽培)					

2) グリホサートアンモニウム塩 41%液剤(ラウンドアップハイロード)(続き)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
だいず	—	一年生雑草	は種10日以前又はは種後出芽前(雑草生育期)	250~500 ml/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	2回以内	雑草茎葉散布	4回以内
豆類(種実ただし、だいず、らつかせいを除く)			収穫前日まで(畦間処理)(雑草生育期)		少量散布 25~50 L/10a	1回		
えだまめ			は種10日以前(雑草生育期)		通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	2回以内		3回以内
えだまめ			は種10日以前又はは種後出芽前(雑草生育期)		少量散布 25~50 L/10a	3回以内		
小麦			は種7日以前又はは種後出芽前(雑草生育期)		通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	2回以内		
麦類(小麦を除く)			多年生イネ科雑草		耕起3日以前(雑草生育期)	3回以内		
野菜類(だいこん、えだまめ、ねぎ、たまねぎ、トマト、きゅうり、なす、アガカス、ホトトギス(葉)、しやくやく(葉用)、たらのぎ、びわ(葉)、ほうれんそう、ゆず、とうがらし類、にんじん、ピーマン、薬用ごんじんを除く)		一年生雑草	は種7日以前又はは種後出芽前(雑草生育期)		通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	1回		1回
いも類(かんしょを除く)		一年生雑草	耕起7日前まで(雑草生育期)		通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	1回		2回以内
かんしょ								
だいこん、とうがらし類、にんじん、ピーマン								
きゅうり、しやくやく(葉用)、トマト、なす、びわ(葉)		一年生雑草	耕起7日前まで(雑草生育期)		通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	1回		3回以内

2) グリホサートアンモニウム塩 41%液剤(ラウンドアップハイロード)(続き)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
ねぎ	—	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 ml/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
たまねぎ			収穫30日前まで (雑草生育期:定植後 畦間処理)					
レタス			耕起又は定植の10日前 まで (雑草生育期)					
ほうれんそう			収穫7日前まで (雑草生育期:定植後 畦間処理)					
アスパラガス			耕起又は定植の7日前まで (雑草生育期)					
			耕起又はは種7日以前 (雑草生育期)					
アスパラガス		耕起7日以前 (雑草生育期)						
アスパラガス	スギナ	収穫前日まで (雑草生育期:畦間処理)	2000 ml/10a	少量散布 25~50 L/10a	2回以内	3回以内		
たらのき	圃場内の 周縁部	一年生雑草	穂木採取7日以前 但し、収穫90日前まで (雑草生育期)	250~500 ml/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
さとうきび			耕起又は植付け 7日前まで (雑草生育盛期)					
さとうきび		多年生雑草	収穫90日前まで (雑草生育期)	500~1000 ml/10a	少量散布 25~50 L/10a	1回		
薬用こんじん	—	一年生雑草	収穫180日前まで (雑草生育期: 畦間処理)	250~500 ml/10a	少量散布 25~50 L/10a 通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	2回以内	雑草茎葉散布	10回以内 (1年間に2 回以内)
そば		一年生及び 多年生雑草	耕起又は は種7日以前 (雑草生育期)					
飼料用 とうもろこし		飼料用とうもろこし 出芽前まで (雑草生育期)						
茶		一年生雑草	春~夏期 但し、摘採7日前まで (雑草生育期)					
牧草		牧草、草 地 (更新・ 造成)	多年生雑草					
	一年生及び 多年生雑草		は種10日以前~ は種当日 (耕起整地後) (雑草発生揃期)	250~500 ml/10a				

2) グリホサートアンモニウム塩 41%液剤(ラウンドアップハイロード)(続き)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数	
				薬量	希釈水量				
桑	—	一年生及び多年生雑草	雑草生育期 (秋～冬期)	250～500 ml/10a	50～100 L/10a	4回以内	茎葉散布 雑草	4回以内	
すぎ (下刈り代用) ひのき (下刈り代用)		スギ、ササ類、 クサ等の 多年生雑草 落葉雑かん木	雑草生育期 (5～6月)	500ml/10a	少量散布 5～10 L/10a	3回以内	茎葉散布 雑草	3回以内	
樹木類		スギナ	雑草生育期		2000ml/10a	少量散布 25～50 L/10a	4回以内	雑草茎葉散布	4回以内
		マルバツユクサ				50L/10a			
	一年生雑草	250～500 ml/10a			通常散布 50～100 L/10a				
	多年生雑草	500～1000 ml/10a			少量散布 25～50 L/10a				
林木	造林地 (地ごしらえ)	スギ、ササ類、 クサ等の 多年生雑草 落葉雑かん木	生育盛期以降 (夏～秋期)	1000ml/10a	少量散布 5～10 L/10a		茎葉散布 雑草		
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	500 ml/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	3回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草木茎葉散布	3回以内	
		多年生雑草		1000 ml/10a					
		クサ等のつる性 多年生雑草 ササ類 落葉雑かん木	生育盛期以降	1000～2000 ml/10a					
		スギナ	生育盛期	2000 ml/10a					

塗布処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面等	一年生及び 多年生雑草	雑草生育期	3倍	3～6L/10a		3回以内	等植栽地の周辺地を除く樹木茎葉塗布	3回以内
牧草	牧野 草地	雑かん木	雑かん木 生育期	原液	切り口直径 5cm以下 5～10cm 10cm以上	塗布量 2ml 3～6ml 10ml	2回以内	切株 塗布処理	3回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

注入処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈 倍数	使用液量	本剤の 使用回 数	使用 方法	グリホサートを含 む農薬 の総使用 回数		
林木	林地	クサ	春期又は 秋期	原液 又は 2倍液	1~2ml/株	-	株頭 注入処理	-		
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道等	落葉 雑かん木	5~9月		1ml/カ所 樹径 カ所数 10cm以下 2~3 10~20cm 4~8 20cm以上 10		立木 注入処理			
林木	林地	アサギ	アカギ 生育期	原液	胸高直径 注入量/カ所数 5~10cm 0.3~2ml/3~4 11~20cm 2ml/3~13		-		-	-
畑作物	畑地				21~30cm 3~4ml/10~ 18					
林木 畑作物	林地 放置竹林 畑地	竹類	夏~秋期	5~15ml/本	竹稈 注入処理					

3) グリホサートアンモニウム塩 66%水溶剤(ラウンドアップドライ)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
かんきつ	—	一年生及び多年生雑草	雑草生育期 (草丈 30cm 以下) 但し収穫 7 日前まで	150~300 g/10a	25~100 L/10a	3 回以内	雑草茎葉散布	5 回以内
りんご ぶどう なし				150~300 g/10a				
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔		雑草生育期 (草丈 30cm 以下) 但し収穫 14 日前まで	150~300 g/10a		2 回以内		
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面等		雑草生育期 (草丈 100cm 以下)	300~600 g/10a		3 回以内		植栽地を除く樹木等の 周辺地に雑草茎葉散布

4) グリホサートカリウム塩 52%液剤(ラウンドアップKロード)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の使用回数
				薬量	希釈水量			
かんきつ	—	一年生雑草	雑草生育期 但し、収穫7日前まで 雑草生育期 但し、収穫7日前まで	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	3 回以内	雑草茎葉散布	5 回以内
かんきつ		多年生雑草		500~1000 mL/10a				
りんご なし		一年生雑草		250~500 mL/10a				
ぶどう		多年生雑草		500~1000 mL/10a				
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生及び 多年生雑草 (スギナを除く)	雑草生育期 但し、収穫 14 日前まで	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	2 回以内		3 回以内
水田作物、 畑作物 (休耕田)	休耕田							
樹木等	公園、 堤とう、 駐車場、 道路、 運動場、 宅地、 のり面、 鉄道等	一年生及び 多年生雑草	雑草生育期	500~1000 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	3 回以内	植栽地を除く樹木等の 周辺地に雑草茎葉散布	3 回以内
		スギナ	生育期	1500~ 2000 mL/10a				
		クズ等のつる性多 年生雑草、 ササ類	生育期	1000~ 2000 mL/10a				

5) グリホサートカリウム塩 48%液剤(ラウンドアップマックスロード)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
果樹類 (かんきつを除く)		一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	200~500 ml/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	3回以内	雑草 茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
		スギナ		1500~2000 ml/10a				
		マルバツユクサ		500~1500 ml/10a				
かんきつ		一年生雑草		200~500 ml/10a		5回以内		5回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
		スギナ		1500~2000 ml/10a				
		マルバツユクサ		500~1500 ml/10a				
びわ(葉)	-	一年生雑草	耕起前まで (雑草生育期)	200~500 ml/10a	1回	3回以内	雑草 茎葉散布	3回以内
		多年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	500~1000 ml/10a				
		スギナ		1500~2000 ml/10a				
		マルバツユクサ		500~1500 ml/10a				
オリーブ (葉)		一年生雑草		耕起前まで (雑草生育期)	200~500 ml/10a	1回	3回以内	雑草 茎葉散布
		多年生雑草	収穫21日前まで (雑草生育期)	500~1000 ml/10a				
		スギナ		1500 ml/10a				
		マルバツユクサ		500~1500 ml/10a				
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草及び 多年生広葉雑草		収穫前日まで (雑草生育期)	500~1000 mL/10a	少量散布 5~25L/10a	3回以内	雑草 茎葉散布
		一年生雑草	200~500 mL/10a					
		多年生雑草	200~1000 mL/10a					
		スギナ	1500~2000 mL/10a					
水田作物 (水田刈跡)	水田刈跡	一年生雑草	雑草生育期	200~500 ml/10a	25~50 L/10a	1回	雑草 茎葉散布	1回
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
水田作物、畑作物(休耕田)	休耕田	一年生雑草	雑草生育期	200~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	3回以内		3回以内
		多年生雑草		500~1000 mL/10a				
		スギナ		1500~2000 mL/10a				
水田作物(水稲を除く) 移植水稲	—	一年生及び多年生雑草	耕起前(雑草生育期)	200~500 mL/10a	少量散布 5~25L/10a	2回以内	雑草茎葉散布	2回以内
500 mL/10a								
200~500 mL/10a								
500 mL/10a								
200~500 mL/10a								
直播水稲	—	一年生及び多年生雑草	耕起直後~出芽前(雑草生育期)(乾田耕起栽培)	200~500 mL/10a	少量散布 25~50 L/10a	2回以内	雑草茎葉散布	2回以内
				500 mL/10a				
				200~500 mL/10a				
				500 mL/10a				
麦類	—	一年生雑草	耕起前又はは種前まで(雑草生育期)	500mL/10a	少量散布 5~25L/10a	3回以内		3回以内
		一年生雑草及び多年生イネ科雑草		200~500 mL/10a				
				は種後出芽前(雑草生育期)				
	圃場内の周縁部	一年生雑草	収穫前日まで(雑草生育期)	500mL/10a	少量散布 5~25L/10a	3回以内		3回以内
				500mL/10a				
雑穀類(そば、とうもろこしを除く)	—	一年生雑草	耕起前又はは種前まで(雑草生育期)	200~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	2回以内		2回以内
そば								
とうもろこし		一年生及び多年生雑草						

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
豆類 (種実、ただし、だいず、あずき、いんげんまめ、らっかせいを除く)	—	一年生雑草	耕起前又はは種前まで (雑草生育期)	200~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	2回以内	雑草 茎葉散布	2回以内
			収穫5日前まで (雑草生育期： 畦間処理)					
あずき いんげんまめ	—	一年生雑草	耕起前又はは種前まで (雑草生育期)	500mL/10a	少量散布 5~25L/10a	2回以内	雑草 茎葉散布	4回以内
だいず			耕起前又はは出芽前まで (雑草生育期)	200~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a			
	収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)	500mL/10a	50~100 L/10a					
	落葉終期～ 収穫14日前まで (雑草生育期)			1回				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数			
				薬量	希釈水量						
えだまめ		一年生雑草	耕起前又はは種前まで (雑草生育期)	500mL/10a	少量散布 5~25L/10a	3回以内		3回以内			
			耕起前又はは出芽前まで (雑草生育期)								
			収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)								
野菜類 (えだまめ、はくさい、 キャベツ、アスパラガス、レタス、ねぎ、たまねぎ、にんにく、ほうれんそう、にんじん、だいこん、 トマト、ピーマン、とうがらし類、きゅうり、なす、びわ(葉)、 ホウレンソウ(葉)、しやくやく(薬用)、 たらしのき、薬用にんじんを除く)		一年生雑草	耕起前まで (雑草生育期)	200~500 mL/10a		1回		1回			
はくさい キャベツ		耕起前又は定植5日前まで (雑草生育期)	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a						3回以内	雑草 茎葉散布	3回以内
レタス		収穫30日前まで (雑草生育期： 定植後畦間処理)									
ねぎ			耕起5日前まで (雑草生育期)								
たまねぎ (春播栽培)			収穫7日前まで (雑草生育期： 畦間処理)								
		スギナ	耕起又は定植14日前まで (スギナ生育期)	1500~ 2000mL/10a							
たまねぎ (秋播栽培)			耕起5日前まで (雑草生育期)								
			収穫7日前まで (雑草生育期： 畦間処理)								
にんにく		一年生雑草	耕起前まで (雑草生育期)	200~500 mL/10a		1回		1回			
			収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)								
ほうれんそう			耕起前又はは種前まで (雑草生育期)								
にんじん			耕起前まで (雑草生育期)			1回					
アスパラガス			収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)	1500~2000 mL/10a		2回以内		3回以内			
		スギナ									

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数	
				薬量	希釈水量				
だいこん	—	一年生雑草	耕起前又はは種前まで (雑草生育期)	200~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	2回以内	雑草茎葉 散布	2回以内	
薬用ニンジン			収穫5日前まで (雑草生育期： 畦間処理)						1回
トマト しゃくやく (薬用) たらのき			耕起前まで (雑草生育期)			2回以内		3回以内	
きゅうり なす			耕起前まで (雑草生育期) 収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)						2回以内
ピーマン とうがらし類			耕起前まで (雑草生育期) 収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)			1回		1回	
いも類 (かんしょ を除く)			耕起前又は 植付け前まで (雑草生育期)						2回以内
かんしょ			耕起前又は 挿苗前まで (雑草生育期) 収穫60日前まで (雑草生育期： 畦間処理)			4回以内		6回以内	
茶			一年生及び 多年生雑草						500~1000 mL/10a
さとうきび			一年生雑草			200~500 mL/10a		2回以内	
			多年生雑草						500~1000 mL/10a
			一年生及び 多年生雑草			収穫60日前まで (雑草生育期： 畦間処理) (但し、 仮茎長1.5m以上)		200~500 mL/10a	
圃場内の 周縁部			一年生雑草			収穫60日前まで (雑草生育期)			200~500 mL/10a
			多年生雑草			収穫60日前まで (雑草生育期)			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリサートを含む農薬の総使用回数							
				薬量	希釈水量										
飼料用とうもろこし	—	一年生及び多年生雑草	飼料用とうもろこし出芽前まで(雑草生育期)	200~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	2回以内	雑草茎葉散布	2回以内							
花き類・観葉植物(きくを除く)		一年生雑草	耕起前まで(雑草生育期)												
きく			雑草生育期畦間処理												
樹木類		—	多年生雑草						—	500~1000 mL/10a	—	4回以内	—	4回以内	
										スギナ					1500~2000 mL/10a
										マルバツユクサ					500~1500 mL/10a
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	200~500 mL/10a	—	3回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草木茎葉散布	3回以内							
		多年生雑草		500~1000 mL/10a											
		一年生及び多年生雑草		500~1000 mL/10a					少量散布 5~25 L/10a						
		スギナ		1500~2000 mL/10a					通常散布 50~100 L/10a						
		ススキ ヒレハリソウ等 ³ のつる性多年生雑草 ササ類 雑かん木		1000~2000 mL/10a					少量散布 25~50 L/10a						
牧草	牧野、草地(更新・造成)	一年生及び多年生雑草	耕起前まで(雑草生育期)	200~500 mL/10a	少量散布 25~50 L/10a	3回以内	—	3回以内							
		—	耕起整地後~は種当日まで(雑草発生揃期)												
—	—	リート ⁴ カリアーグラス	最終刈取後：雑草生育期(草丈50cm以下)	500~1000 mL/10a	50~100 L/10a	—	—	—							
ソルガム	—	一年生雑草	耕起前又はは種前まで	200~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	2回以内	雑草茎葉散布	2回以内							
桑	—	一年生及び多年生雑草	発芽前又は夏切後発芽前(雑草生育期)		少量散布 25~50 L/10a				4回以内	4回以内					
林木	林地 造林地(地ごしらえ)	ススキ、ササ類、クサ ³ 等の多年生雑草、雑かん木	生育期	1000~2000 mL/10a	30L/10a	3回以内	雑草木茎葉散布	3回以内							
まつ(下刈り)	—	—	—		25L/10a										
飼料用さとうきび	—	一年生雑草	耕起前又は植付前まで(雑草生育期)	200~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a	4回以内	雑草茎葉散布	4回以内							
		多年生雑草		500~1000 mL/10a	少量散布 25~50 L/10a										

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

注入処理

作物名	適用場所	適用 雑草名	使用時 期	希釈 倍数	使用液量	本剤の 使用回 数	使用 方法	グリホサート を含む 農薬の総 使用回数
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道等	クズ	生育期	原液	1~2mL/株	-	株頭注 入処理	-
		雑かん木	雑かん木 生育期	原液 又は 2倍液	1mL/カ所 幹周7~8cm間隔		立木注 入 処理	
					地上30cm直径			
クズ・フジ 等のつる 類	生育期	原液 又は 2倍液	つる径	使用量(mL/株)	つる注 入 処理			
林木	林地	竹類	夏~秋期	原液	5~10mL/本	-	竹稈注 入 処理	-
	林地 放置竹林 畑地							
	林地						雑かん木、 間伐する すぎ、 ひのき	
アカギ		アカギ 生育期	原液 又は 2倍液	1mL/カ所 幹周7~8cm間隔				
畑作物	林地 放置竹林 畑地	竹類	夏~秋期	原液	5~10mL/本	-	竹稈注 入 処理	-
	畑地	アカギ	アカギ 生育期	原液	1mL/カ所 幹周7~8cm間隔		立木注 入 処理	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

塗布処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈 倍数	使用液量	本剤の 使用回数	使用方法	グリホサート を含む 農薬の総 使用回数	
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道等	雑かん木	伐採直後	原液 又は 2倍液	切り口全体に 十分量を塗布	—	植栽地を 除く樹木 等の周辺 地に切株 塗布処理	—	
樹木類	林地 畑地			原液	切り口直径	塗布量	4回以内	切株塗布 処理	4回以内
牧草	牧野 草地				5cm以下 5~10cm 10cm以上	2mL 3~6mL 10mL以上			2回以内
日本芝 (のしば)	—	一年生及び 多年生雑草	雑草生育期	5~10倍	3~9L/10a	3回以内	雑草茎葉 塗布	3回以内	

2. 使用上の注意事項

1) グリホサートイソプロピルアミン塩 41%液剤(ラウンドアップ)

- (1) 本剤はグリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (2) 泥などで濁った水は効果を低下させるので本剤の調製には用いないこと。
- (3) 展着剤の加用の必要はない。
- (4) 本剤は土壌中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- (5) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
- (6) 本剤は通常2～14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- (7) 土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所(ノリ面など)では塗布処理が望ましい。
- (8) スギナ防除に際しては、スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草の中に埋没しているような条件では効果が劣ることがあるので、適期にスギナにかかるように注意して散布すること。
- (9) 一年生広葉雑草、または多年生雑草のうちススキ、スギナ、セイタカアワダチソウ等を主対象に使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (10) 処理後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- (11) 通常散布の場合は、下記の希釈倍率の散布液を調製して散布すると便利である。一年生雑草(200～400倍)、多年生雑草(100倍)、つる性の多年生雑草、ササ類、落葉雑草かん木類(50倍)、スギナ(12.5～25倍)。
- (12) 直播水稻に使用する場合は、稲の出芽後に散布すると薬害の恐れがあるので、必ず出芽前までに散布すること。
- (13) 少量散布、極少水量処理の場合は、それぞれ専用のノズルを用いて、雑草木の葉面に均一に散布すること。
- (14) 塗布処理における注意事項
 - 1) 本処理では雑草の葉面に塗布器具で軽くなでるように直接塗布すること。
 - 2) 芝生で塗布処理をする場合、雑草と芝生の高低の差等を利用して雑草茎葉部にのみ塗布すること。誤って芝生に付着すると薬害を生ずるので十分に注意すること。
- (15) 注入処理における注意事項
 - 1) クズには株頭にナタなどで傷をつけ、薬液がよくしみ込むように注入処理する。
 - 2) クズ・フジ等つる類のつる注入処理に使用する場合は、地際近く(50cm程度)の1～3カ所にナタ等でつるに傷をつけてから切口に薬液が十分付着するように処理すること。
 - 3) 落葉雑草かん木には、樹幹の回りに等間隔にナタ目を入れ、薬液を注入処理する。
- (16) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生ずるので、かからないよう十分注意すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

- (17) 本剤の調製及び保管に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用后十分に水洗いすること。
- (18) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (19) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (20) 水源池等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意すること。

2) グリホサートアンモニウム塩 41%液剤(ラウンドアップハイロード)

- (1) 本剤はグリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (2) 泥などで濁った水は効果を低下させるので本剤の調製には用いないこと。
- (3) 展着剤の加用の必要はない。
- (4) 本剤は土壤中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- (5) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
- (6) 本剤は通常2～14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- (7) スギナ防除に際しては、スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草の中に埋没しているような条件では効果が劣ることがあるので、適期にスギナにかかるように注意して散布すること。
- (8) 一年生広葉雑草、または多年生雑草のうちススキ、スギナ、セイタカアワダチソウ等を主対象に使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (9) 処理後3時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- (10) 少量散布の場合は、専用のノズルを用いて雑草木の葉面に均一に散布すること。また下記の希釈倍率の散布液を調製して散布すると便利である。
一年生雑草(100倍)、多年生雑草(50倍)、つる性の多年生雑草、ササ類、落葉雑草かん木類(25倍)、スギナ(25倍)。
ただし、通常散布の場合は、一年生雑草(200～400倍)、多年生雑草(100倍)、つる性の多年生雑草、ササ類、落葉雑草かん木類(50倍)。
- (11) 生育期畦間散布で使用する場合は、飛散防止カバーを使用し、作物体にかからないように散布すること。
- (12) 生育の進んだマルバツユクサに使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (13) 塗布処理の場合には、
 - 1) 雑草には、葉面に塗布器具で軽くなでるように直接塗布すること。
 - 2) 雑草かん木には、伐採後、直ちに切り口全面に所定量を直接塗布すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

- (14) 注入処理の場合には
- 1) クズには株頭にナタなどで傷をつけ、薬液がよくしみ込むように注入処理する。
 - 2) 落葉雑かん木には、樹幹の回りに等間隔にナタ目を入れ、薬液を注入処理する。
 - 3) アカギには、根張り付近に等間隔にドリルで穴を開けて薬液を注入処理し、穴をコルク栓などで塞ぐこと。
 - 4) 処理竹から 15 m以内に発生したたけのこを食用に供さないこと。また、縄囲いや立て札により、たけのこが採取されないようにすること。
- (15) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生ずるので、かからないよう十分注意すること。
- (16) 作物の出芽前に使用する場合、出芽後に散布すると薬害を生じる恐れがあるので、必ず出芽前に散布すること。
- (17) 本剤の調製及び保管に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用后十分に水洗いすること。
- (18) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (19) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (20) 公園、堤とう等で使用する場合は、水源池等に本剤が飛散、流入しないよう特に注意すること。

3) グリホサートアンモニウム塩 66%水溶剤(ラウンドアップドライ)

- (1) 本剤は、グリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせて、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (2) 泥などで濁った水は、効果を低下させるので本剤の調製には用いないこと。
- (3) 展着剤の加用の必要はない。
- (4) 本剤は雑草の発生前処理効果はない。
- (5) 本剤は通常2～5日で効果が発現し、効果完成までにさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- (6) 広葉雑草、多年生雑草に対しては、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (7) 多年生雑草のうち、スギナには効果が劣るので、留意すること。
- (8) 処理後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- (9) 少量散布の場合、少量散布用ノズルを用いて、雑草の葉面に均一に散布すること。
- (10) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生ずるので、かからないよう十分注意すること。
- (11) 本剤の調製及び保管に際しては、合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。
- (12) 散布液を調製した容器及び散布器具は、使用后十分に水洗いすること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

- (13) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (14) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - 1) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
 - 2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。

4) グリホサートカリウム塩 52%液剤(ラウンドアップKロード)

- (1) 本剤はグリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (2) 泥などで濁った水は効果を低下させるので本剤の調製には用いないこと。
- (3) 展着剤の加用の必要はない。
- (4) 本剤は土壌中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- (5) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
- (6) 本剤は通常 2～14 日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- (7) スギナ防除に際しては、スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草の中に埋没しているような条件では効果が劣ることがあるので、適期にスギナにかかるように注意して散布すること。
- (8) 一年生広葉雑草、または多年生雑草のうちススキ、スギナ、セイタカアワダチソウ等を主対象に使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (9) 処理後 3 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- (10) 少量散布の場合は、専用のノズルを用いて雑草の葉面に均一に散布すること。
- (11) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生ずるので、かからないよう十分注意すること。
- (12) 本剤の調製及び保管に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用后十分に水洗いすること。
- (13) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - 1) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
 - 2) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (14) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

5) グリホサートカリウム塩 48%液剤(ラウンドアップマックスロード)

- (1) 本剤はグリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (2) 泥などで濁った水は効果を低下させるので本剤の調製には用いないこと。
- (3) 展着剤の加用の必要はない。
- (4) 本剤は土壌中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- (5) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
- (6) 本剤は通常 2～7 日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- (7) スギナ防除に際しては、スギナが他雑草の中に埋没しているような条件の散布では効果が劣ることがあるので、スギナにかかるように注意して散布すること。
- (8) たまねぎ(春播栽培)のスギナに使用する場合、前作のたまねぎ(春播栽培)収穫後のスギナ生育期に散布すること。
- (9) 一年生広葉雑草、または多年生雑草のうちススキ、セイタカアワダチソウ等を主対象に使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (10) 生育の進んだマルバツユクサに使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (11) 処理後 1 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- (12) 注入処理の場合には
 - 1) 雑かん木、間伐するすぎ、ひのきには、樹幹の回りに等間隔にナタ目を入れ薬液を注入処理するか、ドリル等で穴を開けて薬液を注入処理し穴をコルク栓などで塞ぐこと。
 - 2) アカギには、根張り付近に等間隔にドリル等で穴を開けて薬液を注入処理し、穴をコルク栓などで塞ぐこと。
 - 3) 竹類の竹稈注入処理の場合は、処理竹から 15 m以内に発生したたけのこを食用に供さないこと。また、縄囲いや立て札により、たけのこが採取されないようにすること。
 - 4) クズ・フジ等つる類のつる注入処理に使用する場合、出来るだけ地際に近い部分に、外皮を木部が現れるように切り出しナイフ等で剥皮(幅 1.0～1.5cm、長さ 6～8cm 程度)し、切り口に薬液が十分付着するように処理すること。また、つる径 2cm を超えるものは浅めに切り口を 1～2 箇所つけて処理すること。
 - 5) クズの株頭注入処理に使用する場合、株頭にナタなどで傷をつけ、薬液がよくしみ込むように注入処理すること。
- (13) 少量散布の場合は、希釈水量(5～25L/10a 又は 25～50L/10a)に応じ、それぞれ専用のノズルを用いて、雑草木の葉面に均一に散布すること。
- (14) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生じるので、かからないよう十分注意すること(だいたいの落葉終期～収穫 14 日前までに散布する場合を除く)。
- (15) 水田畦畔のアシカキ、ハイコヌカグサ、キシユウスズメノヒエ等に使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (16) 生育期畦間処理で使用する場合、飛散防止カバーを使用し、作物体にかからないように散布すること。
- (17) さとうきびの畦間処理で使用する場合、仮茎長が 1.5m 以上のさとうきびに使用し、さとうきびにかからないよう雑草茎葉に散布すること。また、倒伏したさとうきびに薬液が付着すると薬害が生じるので、かからないよう十分注意すること。
- (18) 牧草の適用雑草名「リードカナリーグラス」に使用する場合、雑草が生え揃った時期以降に散布し、草丈の目安は 20cm 以上とすること。
- (19) 作物の出芽前に使用する場合、出芽後に散布すると薬害を生じるおそれがあるので、必ず出

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

芽前に散布すること。

- (20) 塗布処理の場合、
 - 1) 雑かん木には、伐採後、直ちに切り口全面に直接塗布すること。
 - 2) 芝の一年生及び多年生雑草には、雑草と芝の高低の差等を利用して、雑草の茎葉に塗布器具等で軽くなでるように塗布すること。誤って芝に付着すると薬害を生じるので十分に注意すること。
- (21) だいずの落葉終期～収穫 14 日前までに使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - 1) 落葉終期とは、だいずの葉の大部分が落葉した時期とする。
 - 2) だいず着生葉や莢色に淡緑色が残っている等の成熟の遅れた株(青立ち株)に散布すると、子実の変色やしわ粒等が発生する場合がありますので、散布前に除去等を行うこと。
 - 3) 水分含量の高い果実をつけた雑草では茎葉が枯れても果実が残る場合があり、汚損粒の原因となるので収穫前に除去等を行うこと。また、雑草の茎水分含量が高い場合も汚損粒の原因となるので収穫前に除去等を行うこと。
 - 4) 気温が低下する条件での処理であり、効果の完成まで 2 週間以上の期間を要するので、収穫時期は処理後 3 週間を目安とする。
- (22) 本剤の調製及び保管に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用后十分に水洗いすること。
- (23) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - 1) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
 - 2) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (24) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (25) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

3. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

1) グリホサートイソプロピルアミン塩 41%液剤(ラウンドアップ)

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

2) グリホサートアンモニウム塩 41%液剤(ラウンドアップハイロード)

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

3) グリホサートアンモニウム塩 66%水溶剤(ラウンドアップドライ)

4) グリホサートカリウム塩 52%液剤(ラウンドアップKロード)

水産動植物(魚類)に影響を及ぼす恐れがあるので、養魚田周辺での使用には注意すること。

5) グリホサートカリウム塩 48%液剤(ラウンドアップマックスロード)

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 養魚田周辺での使用には、特に注意すること。
- (3) 水産動植物(藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

V. 残留性及び水質汚濁性

1. 作物残留性

1) 分析法の原理及び操作上の留意点

(環境庁告示 昭和 56 年 2 月 23 日)

水抽出、陰イオン交換樹脂のカラムクロマトグラフィー及び活性炭で精製。陽イオン交換樹脂のカラムクロマトグラフィーでグリホサート及びアミノメチルホスホン酸を分離、精製。それぞれアミノ基をトリフロオロアセチル化した後、水酸基をメチル化。

ガスクロマトグラフィー (FPD、P-フィルター) で定量。

(環境庁告示 昭和 63 年 3 月 24 日)

水抽出、強酸性陽イオン交換樹脂のカラムクロマトグラフィーでグリホサート及びアミノメチルホスホン酸を分離、精製。それぞれ 9-フルオレニルメチルクロロホルマーでけい光ラベル化。高速液体クロマトグラフィー (けい光検出器) で定量。

(昭和 62 年度以降実施の作物残留試験については、この分析方法を用いた)

2) 分析対象の化合物名

	親化合物
化学名	N-(ホスホノメチル) グリシン
分子式	$C_3H_8NO_5P$
分子量	169.17
代謝経路図中での記号	[A]PMG

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

3) 残留試験結果

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター	(株)三共 農薬研究所		
1	水稲 (玄米) 昭和 48 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41.5%) 1250mL/10a 散布	農技研 (鴻巣)	0 1	— 151	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
			熊本農試	0 1	— 161	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
	水稲 (稲わら) 昭和 48 年度		農技研 (鴻巣)	0 1	— 151	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			熊本農試	0 1	— 161	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)日本食品 分析センター	(株)化学分析 コンサルタント		
5	水稲 (玄米) 昭和 53 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 2500mL/10a 散布	鹿児島農試	0 1	— 95	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			兵庫農総 センター	0 1	— 86	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
	水稲 (稲わら) 昭和 53 年度		鹿児島農試	0 1	— 95	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			兵庫農総 センター	0 1	— 86	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
						(財)日本食品 分析センター	日本モンサント(株) 生物科学研究所		
22	水稲 (玄米) 昭和 63 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 1250mL/10a 5回散布 (刈跡全面1 回、耕起前全面 1回、畦畔3回)	千葉農試	0 5	— 4	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			大阪農技 センター	0 5	— 9	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
	水稲 (稲わら) 平成 63 年度		千葉農試	0 5	— 4	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			大阪農技 センター	0 5	— 9	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
39	水稲 (玄米) 平成 7 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 1000mL/10a 不耕起乾田 直播 播種後出芽前 全面	愛知農総試	0 1	— 134	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			岡山農試	0 1	— 139	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
	水稲 (稲わら) 平成 7 年度		愛知農総試	0 1	— 134	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			岡山農試	0 1	— 139	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター		日産化学工業(株) 生物科学研究所	
日 産 1	水稻 (露地) (玄米) 平成 15 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 1000mL/10a 不耕起乾田直 播栽培 3 回散布 (播種前全面 2 回、播種後出 芽前全面 1 回)	岡山農業総 合センター	0 3	— 142	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			佐賀農業試 験研究センター	0 3	— 111	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
	岡山農業総 合センター		0 3	— 142	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	
	佐賀農業試 験研究センター		0 3	— 111	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	
日 産 13	水稻 (露地) (玄米) 平成 16 年度	カリウム塩液剤 (52%) 1000mL/10a 3 回散布 (耕起前、耕起 後入水前全面) 2000mL/10a 3 回散布 (収穫前畦畔)	日植調 研究所	0 6	— 1	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			日植調 福岡試験地	0 6	— 1	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
	日植調 研究所		0 6	— 1	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	
	日植調 福岡試験地		0 6	— 1	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	
						(財)日本食品 分析センター		(株)化学分析 コンサルタント	
13	小麦 (種子) 昭和 59 年度	イソプロピルアンモニウム塩 液剤(41%) 1250mL/10a	北海道 十勝農試	0 1	— 326	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			群馬農総試	0 1	— 229	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			北海道 十勝農試	0 1	— 326	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			群馬農総試	0 1	— 229	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
	小麦 (青刈り) 昭和 59 年度	イソプロピルアンモニウム塩 液剤(41%) 2500mL/10a	北海道 十勝農試	0 1	— 279	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			群馬農総試	0 1	— 210	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			北海道 十勝農試	0 1	— 279	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			群馬農試	0 1	— 210	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
44	小麦 (玄麦) 平成 13 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 1000mL/10a	日植調 十勝試験地	0 2	— 302	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04
			日植調 研究所	0 2	— 209	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター	日産化学工業(株)		
日産 23	小麦 (露地) (玄麦) 平成 18 年度	カリウム塩液剤 (48%) 3 回散布 1000mL/10a	日植調 研究所	0 3	— 1	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04
	日植調 福岡試験地		0 3	— 1	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	
						(財)日本食品 分析センター	日本モンサント(株) 生物科学研究所		
29	大麦 (露地) (種子) 平成元年度	ソルビトール塩 液剤(41%) 2500mL/10a 1 回散布 (耕起前)	栃木県農試	0 1	— 229	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			愛媛県農試 北条	0 1	— 182	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)日本食品 分析センター	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 22	大麦 (種子) 平成 15, 16 年 度	アンモニウム塩液剤 (41%) 1000mL/10a 3 回散布 A 区:2 回散布 (播種前全面 1 回、播種後出芽 前全面 1 回) B 区:3 回散布 (播種前全面 1 回、播種後出芽 前全面 1 回、収 穫前畦間 1 回)	日植調 研究所	0 2 3	— 187 1	<0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02
			日植調福岡	0 2 3	— 166 1	<0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02
						(財)残留農薬研究所	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 24	未成熟 とうもろこし (生食用子実) 平成 20 年度	カリウム塩液剤 (48%) 1000mL/10a 2 回散布 (播種前、播種 後出芽前全面)	日植調 研究所	0 2	— 82	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			日植調鹿 児島大隈	0 2	— 71	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)日本食品 分析センター	-		
日産 14	そば (露地) (種子) 平成 18 年度	カリウム塩液剤 (48%) 1000mL/10a 2 回散布 (播種前、播種 後出芽前全面)	日植調 研究所	0 2	— 69	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	- -	- -
			三重植防	0 2	— 67	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	- -	- -

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター	(株)化学分析 コンサルタント		
40	だいず (グリホサート 耐性) (乾燥子実) 平成 12 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 2000mL/10a (出芽前全面) 500mL/10a (7 葉期全面)	岩手農研 センター	0 2	— 97	<0.02 2.66	<0.02 2.60	<0.01 2.19	<0.01 2.15
			長野中信 農試	0 2	— 100	<0.02 0.87	<0.02 0.85	<0.01 0.86	<0.01 0.86
45	だいず (乾燥子実) 平成 14 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 1000mL/10a出 芽前全面	栃木農試	0 1	— 108	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04
	だいず (乾燥子実) 平成 13 年度		長野中信 農試	0 2	— 128	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04
46	だいず (グリホサート 耐性) (乾燥子実) 平成 14 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 250mL/10a 1 回散布	日植調 研究所	0	—	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				1	96	0.21	0.20	0.19	0.19
				1	100	0.07	0.06	0.06	0.06
			日植調 福岡試験地	0	—	<0.04	<0.04	<0.08	<0.08
				1	111	0.16	0.16	0.13	0.13
				1	115	0.10	0.10	0.10	0.10
1	119	0.10	0.10	0.08	<0.08				
						(財)日本食品 分析センター	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
47	だいず (乾燥子実) 平成 15 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 1000mL/10a 2 回 (出芽前全面)	栃木県農業 試験場	0 2	— 122	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04
日 産 11	だいず (露地) (乾燥子実) 平成 17 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 700mL/10a 3 回散布 (出芽前全面 2 回、出芽後畦間 1 回)	日植調 古川試験地	0	—	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				3	1	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
			3	7	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	
			新潟植防	0	—	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
3	1	<0.04		<0.04	<0.04	<0.04			
3	7	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04				
						(財)日本食品 分析センター	日本モンサント(株) 生物科学研究所		
25	だいず (露地) (乾燥種子) 平成 2 年度	ｲﾝﾌﾟﾛﾌﾞﾙｱﾐﾝ塩 液剤(41%) 1250mL/10a 1 回散布 (播種前)	北海道北見 農試	0 1	— 136	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			長野中信 農試	0 1	— 129	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
	北海道北見 農試		0 1	— 100	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	
	長野中信 農試		0 1	— 99	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	
だいず (露地) (えだまめ) 平成 2 年度									

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
								日産化学工業(株) 生物科学研究所	
日産 38 GLP	だいざ (露地) (乾燥子実) 平成 23 年度 GLP	カリウム塩液剤 (48%) 500mL/10a 3 回散布 (生育期畦間1 回 全面*1 回 収穫前日畦間1 回) *全面処理 A: 成熟期 B: 完全落葉期 C: 落葉期	日植調 古川試験地	0	—			<0.2	<0.2
				3	1	—	—	<0.2(A)	<0.2(A)
				3	1	—	—	<0.2(B)	<0.2(B)
			日植調 研究所	0	—			<0.2	<0.2
				3	1	—	—	<0.2(A)	<0.2(A)
				3	1	—	—	<0.2(B)	<0.2(B)
			日植調福岡	0	—			<0.2	<0.2
				3	1	—	—	<0.2(A)	<0.2(A)
				3	1	—	—	<0.2(B)	<0.2(B)
							(財)日本食品 分析センター		
日産 28	小豆 (乾燥子実) 平成 21 年度	カリウム塩液剤 (48%) 500mL/10a 3 回散布 (は種前、出芽 前、生育期畦 間)	日植調十勝	0	—	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
				3	5	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
			日植調青森	0	—	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
				3	5	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
日産 29	いんげんまめ (乾燥子実) 平成 21 年度	カリウム塩液剤 (48%) 500mL/10a 3 回散布 (は種前、出芽 前、生育期畦 間)	日植調 北海道	0	—	<0.2	<0.2	—	—
				3	5	<0.2	<0.2	—	—
			岩手大学 農学部	0	—	<0.2	<0.2	—	—
				3	5	<0.2	<0.2	—	—
							(財)日本食品 分析センター		
日産 2	えだまめ (露地) (さや) 平成 15 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 2000mL/10a 3 回散布 (出芽前全面 1 回、出芽後畦間 2 回)	日植調 研究所	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				3	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			日植調 福岡試験地	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				3	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 10	ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成 17 年度	アミノム塩液剤 (41%) 1000mL/10a A 区:1 回散布 (植付前全面 1 回) B 区:2 回散布 (植付前全面 1 回、植付後畦間 1 回)	日植調 北海道試験 地	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	128	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			日植調 研究所	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	94	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
						(財)日本食品 分析センター	日本モンサント(株) 生物科学研究所		
27	かんしょ (露地) (塊根) 平成 2 年度	イブ [®] ピ [®] ル [®] アミン塩 液剤(41%) 1250mL/10a 1 回散布 (耕起前)	千葉農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	138	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			鹿児島農試 大隅支場	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	173	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
35	かんしょ (露地) (塊根) 平成 5 年度	イブ [®] ピ [®] ル [®] アミン塩 液剤(41%) 500mL/10a 1 回散布 (挿苗後畦間)	千葉農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	94	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			鹿児島農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	128	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
						(財)残留農薬研究所	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 35	かんしょ (露地) (塊根) 平成 22 年度	カルウム塩 液剤(48%) 500mL/10a 2 回散布 (耕起前、 挿苗後畦間)	日植調研 研究所	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	60	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			日植調東海	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	67	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
						(財)日本食品 分析センター	日本モンサント(株) 生物科学研究所		
34	やまのいも (露地) (塊根) 平成 5 年度	イブ [®] ピ [®] ル [®] アミン塩 液剤(41%) 1000mL/10a 1 回散布	青森畑作 園試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	152	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			栃木農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	158	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
38	こんにゃく (球茎) 平成 6 年度	イブ [®] ピ [®] ル [®] アミン塩 液剤(41%) 500mL/10a 3 回処理 (萌芽期全面(1 回)、畦間処理 (2 回))	群馬農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				3	44	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			長野南信 農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				3	45	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター	(株)化学分析 コンサルタント		
12	さとうきび (茎) 昭和 57 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 1250mL/10a 1 回処理 ^a 株出栽培 3 回処理 ^b 春植栽培	鹿児島農試	0	—	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
				1 ^a	281	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			沖縄農試	0	—	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
				1 ^a	288	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
						(財)日本食品 分析センター	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日 産 19	さとうきび (露地) (茎) 平成 17 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 1500mL/10a 2 回散布 (植付前全面 1 回、登熟期畦 間 1 回)	鹿児島農試 徳之島支場	0	—	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
				2	60	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
			沖縄農試 名護支場	0	—	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
				2	61	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
						(財)日本食品分析セ ンター	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日 産 33	さとうきび (露地) (茎) 平 成 21 年度	カリウム塩液剤 (48%) 1000mL/10a 6 回散布 (植え付け前 4 回、生育期畦間 2 回)	沖縄農研 石垣支所	0	—	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
				6	65	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
			沖縄農研 糸満	0	—	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
				6	60	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
						(財)日本食品 分析センター	日本モンサント(株) 生物科学研究所		
16	だいこん (露地) (根部) 昭和 62 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 1250mL/10a	千葉農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
				1	90	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
	愛知農総試		0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04	
			1	63	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04	
	だいこん (露地) (葉部) 昭和 62 年度		千葉農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
				1	90	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
愛知農総試	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04			
	1	63	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04			
だいこん (露地) (つまみ菜) 昭和 62 年度	千葉農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04		
		1	45	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04		
愛知農総試	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04			
	1	22	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)残留農薬研究所		日産化学工業(株) 生物科学研究所	
日産 31	だいこん (露地) (根部) 平成 20 年度 (日植調研) 平成 21 年度 (三重植防)	カウム塩液剤 (48%) 1000mL/10a 2 回散布 (は種前日、生 育期畦間)	日植調 研究所	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	5	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	9	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			三重植防	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	5	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
日産 32	だいこん (露地) (葉部) 平成 20 年度 (日植調研) 平成 21 年度 (三重植防)	カウム塩液剤 (48%) 1000mL/10a 2 回散布 (は種前日、生 育期畦間)	日植調 研究所	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	5	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	9	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			三重植防	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	5	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
						(財)日本食品 分析センター		日本モンサント(株) 生物科学研究所	
15	はくさい (露地) (葉球) 昭和 62 年度	イブピルミン塩 液剤(41%) 1 回処理 1250mL/10a (耕起・播種前 全面)(群馬) 2 回処理 50, 1250mL/10a (更新・造成前 全面 1 回、播種 時全面 1 回)	群馬 農試高冷地	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
				1	75	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
			兵庫中央農 技センター	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
				2	81	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
14	キャベツ (露地) (葉球) 昭和 62 年度	イブピルミン塩 液剤(41%) 1250mL/10a 更新・造成前 1 回散布	長野南信 農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
				1	79	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
			兵庫中央農 技センター	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
				1	71	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
						(財)日本食品 分析センター		日産化学工業(株) 生物科学研究所	
日産 6	レタス (露地) (茎葉) 平成 15, 16 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 1000mL/10a 3 回散布 (定植前全面 1 回、定植後畦間 2 回)	千葉大学環 境健康フィ ールド科学センター	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				3	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				3	11	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			兵庫県立農 林水産技術 総合センター	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				3	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター	(株)日本モンサント(株) 生物科学研究所		
24	たまねぎ (露地) (鱗茎) 平成元年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 1250mL/10a 1回散布 (定植前)	兵庫淡路農 技センター	0 1	— 195	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			和歌山農試	0 1	— 176	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)日本食品 分析センター	(株)化学分析 コンサルタント		
43	たまねぎ (鱗茎) 平成13年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 1000mL/10a 3回 (定植前全面1 回、収穫前畦間 2回)	兵庫淡路農 技センター	0 3	— 7	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			佐賀農研セ ンター 白石分場	0 3	— 7	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)日本食品分析セ ンター	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 39	たまねぎ (露地) (鱗茎) 平成22年	カリウム塩液剤 (48%) 500mL/10a 3回散布 (生育期 畦間処理3回)	日植調 北海道 試験地	0 3	— 7	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			日植調 協会研究所	0 3	— 7	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
日産 40	たまねぎ (露地) (鱗茎) 平成22年	カリウム塩液剤 (48%) 2000mL/10a 3回散布 (定植前 全面処理3回)	日植調 北海道 試験地	0 3	— 138	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			日植調 協会研究所	0 3	— 236	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)日本食品 分析センター	(株)化学分析 コンサルタント		
42	ねぎ(露地) (茎葉) 平成13年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 1000mL/10a 3回 (定植前全面1 回、収穫前畦間 2回)	青森県畑作 園芸試 (根深ねぎ)	0 3	— 30	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
	ねぎ(露地) (茎葉) 平成12年度		北海道道南 農試 (根深ねぎ)	0 3	— 30	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
			奈良県農技 センター (葉ねぎ)	0 3	— 30	— —	— —	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
			宮崎総農畑 作園芸支場 (葉ねぎ)	0 3	— 29	— —	— —	<0.01 0.01	<0.01 0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)残留農薬研究所			
日産 41	にんにく (露地) (鱗茎) 平成 22 年	カリウム塩液剤 (48%) 500mL/10a 1 回散布 (生育期 畦間処理 1 回)	青森県産業 技術センター 野菜研究所	0	—	<0.02	<0.02	—	—
				1	1	<0.02	<0.02		
			香川県 農業試験場	0	—	<0.02	<0.02	—	—
				1	1	<0.02	<0.02		
						(財)日本食品 分析センター		日産化学工業(株) 生物科学研究所	
日産 17	アスパラガス (露地) (茎) 平成 17 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 2500mL/10a 2 回散布 (畦間)	岩手植防	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	3	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			神奈川県農技セ ンター	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	3	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
						(財)日本食品 分析センター		日産化学工業(株) 生物科学研究所	
日産 18	にんじん (露地) (根) 平成 17 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 1000mL/10a 2 回散布 A 区:1 回散布 (播種前全面 1 回) B 区:2 回散布 (播種前全面 1 回、収穫前畦間 1 回)	日植調 研究所	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	116	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			日植調三重	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	114	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				2	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
						(財)日本食品 分析センター		日本モンサント(株) 生物科学研究所	
32	トマト (露地) (果実) 平成元年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 1250mL/10a 1 回散布 (定植前)	千葉農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	72	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			岐阜高冷地 農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	68	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
33	なす (露地) (果実) 平成元年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 1250mL/10a 1 回散布 (定植前)	山梨総農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	57	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			長野南信 農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	68	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター	日本モンサント(株) 生物科学研究所		
30	きゅうり (露地) (果実) 平成元年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 1250mL/10a 1 回散布 (定植前)	千葉農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	57	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			福島農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				1	57	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
						(財)残留農薬研究所	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 26	きゅうり (施設) (果実) 平成 21 年度	カリウム塩液剤 (48%) 500mL/10a 2 回散布 (定植前、 生育期畦間)	岩手農研 南部園研	0	—	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				2	1	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
			鹿児島農業 開発センター	0	—	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				2	1	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
						(財)日本食品 分析センター	日本モンサント(株) 生物科学研究所		
17	すいか (露地) (果実) 昭和 62 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 1250mL/10a 定植前散布	香川農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
				1	86	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
			熊本農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
				1	70	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
						(財)日本食品 分析センター	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 8	ほうれんそう (露地) (茎葉) 平成 16 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 1000mL/10a 3 回散布 (出芽前全面 2 回、出芽後畦間 1 回)	日植調 研究所	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				3	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			千葉大学	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				3	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				3	15	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
						(株)化学分析 コンサルタント	—		
日産 9	たらのき (露地) (茎葉部) 平成 16 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 500mL/10a 3 回散布 (採穂前畦間処 理)	青森農総研 センター	0	—	<0.02	<0.02	—	—
				3	62	<0.02	<0.02	—	—
			山形病害虫 防除所	0	—	<0.02	<0.02	—	—
				3	96	<0.02	<0.02	—	—
						日本エコテック(株)	—		
日産 12	薬用ニンジン (露地(簡易日 覆栽培)) (根部) 平成 17 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 500mL/10a 5 回散布 (畦間処理)	福島農試 会津支場 (新鶴村)	0	—	<0.02	<0.02	—	—
				5	188	<0.02	<0.02	—	—
			福島農試 会津支場 (会津坂下 町)	0	—	<0.02	<0.02	—	—
				5	188	<0.02	<0.02	—	—

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)残留農薬研究所	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 25	ピーマン (施設) (果実) 平成 21 年度	カリウム塩液剤 (48%) 500mL/10a 2 回散布 (定植前、 生育期畦間)	岩手農研 南部園研	0 2	— 1	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			日植調 研究所	0 2	— 1	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)残留農薬研究所	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 30	なす (露地:新潟、 施設:福岡) (果実) 平成 21 年度	カリウム塩液剤 (48%) 500mL/10a 2 回散布 (定植前、生育 期畦間)	新潟農総研 園研センター	0 2	— 1	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			福岡農総試 筑後分場	0 2	— 1	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)日本食品 分析センター	三共(株) 農薬研究所		
2	みかん (果肉) 昭和 48 年度	イソプロピル塩 液剤(41%) 1000mL/10a 2 回散布	静岡柑橘試	0 2	— 100	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			愛知農試	0 2	— 92	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
	みかん (果皮) 昭和 48 年度		静岡柑橘試	0 2	— 100	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			愛知農試	0 2	— 92	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)日本食品 分析センター	モンサント社 フリュージェル研究所		
3	みかん (果肉) 昭和 52 年度	イソプロピル塩 液剤(41%) 2500mL/10a 3 回散布	三重農技 センター	0 3	— 7	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			香川農試	0 3	— 7	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
	みかん (果皮) 昭和 52 年度		三重農技 センター	0 3	— 7	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			香川農試	0 3	— 7	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター	(株)化学分析 コンサルタント		
9	みかん (果肉) 昭和 55 年度	イブ [®] ピ [®] ルアミン塩 液剤(41%) 2500mL/10a 3 回散布	宮崎農総試	0 3	— 7	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			愛知農総試	0 3	— 7	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
	みかん (果皮) 昭和 55 年度		宮崎農総試	0 3	— 7	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			愛知農総試	0 3	— 7	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
						(財)日本食品 分析センター	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 15 16	温州みかん (施設) (果肉) 平成 17 年度	カリウム塩液剤 (48%) 2500mL/10a 散 布	神奈川農技 センター (根府川)	0 3	— 1	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			三重植防	0 3	— 1	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
	温州みかん (施設) (果皮) 平成 17 年度		神奈川農技 センター (根府川)	0 3	— 1	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04
			三重植防	0 3	— 1	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04
						(財)日本食品 分析センター	日本モンサント(株) 生物科学研究所		
21	なつみかん (果肉) 昭和 63 年度	イブ [®] ピ [®] ルアミン塩 液剤(41%) 2500mL/10a 3 回散布	静岡柑橘試	0 3	— 6	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			熊本果試	0 3	— 4	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
	なつみかん (果皮) 昭和 63 年度		静岡柑橘試	0 3	— 6	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			熊本果試	0 3	— 4	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)残留農薬研究所	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 34	なつみかん (露地) (果実全体) 平成 22 年度	カリウム塩液剤 (48%) 2000mL/10a 5 回散布	三重農研 紀南果樹研	0 5	— 7	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04
			香川農試 府中	0 5	— 7	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04
				0 5	— 7	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター	(株)化学分析 コンサルタント		
4	りんご (可食部) 昭和 53 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 2500mL/10a 3 回散布	青森 りんご試	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				3	6	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			長野農試	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
3	7	<0.05		<0.05	<0.05	<0.05			
						(財)日本食品 分析センター	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 20	りんご (露地) (果実) 平成 17 年度	カルシウム塩液剤 (48%) 2500mL/10a 3 回散布	青森農総研 センター	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				3	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			福島植防	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
3	1	<0.02		<0.02	<0.02	<0.02			
						(財)日本食品 分析センター	日本モンサント(株) 生物科学研究所		
18	なし (果実) 昭和 63 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 2500mL/10a 3 回散布	茨城園試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				3	11	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			長野南信 農試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
3	4	<0.02		<0.02	<0.02	<0.02			
						(財)日本食品 分析センター	(株)化学分析 コンサルタント		
11	もも (果肉) 昭和 58 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 2500mL/10a 2 回散布	福島果試	0	—	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
				1	79	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
				2	7	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
	山梨果試		0	—	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	
			1	97	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	
			2	13	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	
	福島果試		0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			1	79	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
2		7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
もも (果肉・果皮) 昭和 58 年度	山梨果試	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
		1	97	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
		2	13	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター	日本モンサント(株) 生物科学研究所		
23	もも (果肉) 平成元年度	イソプロピルピリン塩 液剤(41%) 2500mL/10a 3回散布	福島果試	0 3	— 7	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			山梨果試	0 3	— 6	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
	もも (果皮) 平成元年度		福島果試	0 3	— 7	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			山梨果試	0 3	— 6	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
20	うめ (果実) 昭和 63 年度	イソプロピルピリン塩 液剤(41%) 2500mL/10a 3回散布	山梨果試	0 3	— 6	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			和歌山農試 紀北分場	0 3	— 6	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
28	おうとう (果実) 平成元年度		山形県園試	0 3	— 6	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			山梨果試	0 3	— 9	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
31	いちご (施設) (果実) 平成元年度	イソプロピルピリン塩 液剤(41%) 1250mL/10a 1回散布 (定植前)	静岡農試	0 1	— 116	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			福岡農試	0 1	— 123	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)日本食品 分析センター	(株)化学分析 コンサルタント		
6	ぶどう (可食部) 昭和 53 年度		イソプロピルピリン塩 液剤(41%) 2500mL/10a 3回散布	山梨果試 (無袋)	0 3	— 7	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.05 <0.05
		岡山農試 (有袋)		0 3	— 7	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
						(財)日本食品 分析センター	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 21	ぶどう (露地) (果実) 平成 17 年度	カリウム塩液剤 (48%) 2500mL/10a 散 布		千葉大学環 境健康ファ イルト科学 センター	0 3	— 1	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			東京農大 (神奈川)	0 3	— 1	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)日本食品 分析センター	日本モンサント(株) 生物科学研究所		
19	かき (果実) 昭和 63 年度		イソプロピルピリン塩 液剤(41%) 2500mL/10a 3回散布	福島果試	0 3	— 6	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
		静岡柑橘試		0 3	— 6	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター		(株)化学分析 コンサルタント	
41	キウイ フルーツ (果実) 平成 12 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 2500mL/10a	神奈川県農 総試験府川	0 3	— 7	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
			福岡農試 園芸研	0 3	— 7	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
						(財)日本食品 分析センター		—	
日産 7	オリーブ (露地) (葉) 平成 16 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 2000mL/10a 3 回散布	香川県農業 試験場小豆 分場	0 3	— 21	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	— —	— —
			香川県農業 試験場病害 虫防除所	0 3	— 21	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	— —	— —
						(社)長崎県食品衛生協 会食品環境検査センター			
日産 27	びわ(葉) (露地) (生葉) 平成 21 年度	カリウム塩液剤 (48%) 2000mL/10a 3 回散布	長崎農技 開発センター (諫早市)	0 3	— 1	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	— —	— —
			長崎農技 開発センター (長崎市)	0 3	— 1	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	— —	— —
						(財)日本食品 分析センター		(株)化学分析 コンサルタント	
10	くり (果実) 昭和 56 年度	イソプロピルルアミン塩 液剤(41%) 2500mL/10a 3 回散布	茨城園試	0 3	— 8	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
			熊本果試	0 3	— 8	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
						(財)日本食品 分析センター		日本モンサント(株) 生物科学研究所	
26	茶 (露地) (荒茶) 平成 2 年度	イソプロピルルアミン塩 液剤(41%) 1250mL/10a 3 回散布 (畦間処理)	京都府茶試	0 3	— 3	<0.04 0.06	<0.04 0.05	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			鹿児島県 茶試	0 3	— 7	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)				
						公的分析機関		社内分析機関		
						グリホサート		グリホサート		
						最高値	平均値	最高値	平均値	
						(財)日本食品 分析センター	日産化学工業(株) 生物科学研究所			
日産 5	飼料用とうも ろこし (露地) (茎葉(青刈り)) 平成 16 年度	アンモニウム塩液剤 (41%) 1000mL/10a 2 回散布 (播種前全面 1 回、播種後出芽 前全面 1 回)	日植調 十勝試験地	0 2	— 93	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	
			日植調 岩手試験地	0 2	— 110	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	
	日植調 十勝試験地		0 2	— 111	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02		
	日植調 岩手試験地		0 2	— 121	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02		
						(財)日本食品 分析センター	(株)化学分析 コンサルタント			
8	アンファルファ (茎葉部) 昭和 55 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 1.2kg/10a (宮崎) 2500mL/10a (北海道) 播種前全面 散布	宮崎農総試	0 1 1	— 65 85	<0.05 <0.05 <0.05	<0.05 <0.05 <0.05	<0.05 <0.05 <0.05	<0.05 <0.05 <0.05	
			北海道立 天北農試	0 1	— 59	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	
				1	81	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			7	イタリアン ライグラス (茎葉部) 昭和 55 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 2500mL/10a 播種前全面 散布	宮崎農総試	0 1 1	— 39 63	<0.05 <0.05 <0.05	<0.05 <0.05 <0.05
北海道立 天北農試	0 1	— 59				<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	
	1	81				<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
									(財)日本食品 分析センター	日本モンサント(株) 生物科学研究所
36	牧草 (赤コーパー) (茎葉) 平成 6 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 500mL/10a 1 回散布 播種同時処理	北海道農試	0 1	— 70	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	
			北海道根釧 農試	0 1	— 62	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	
				1	70	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			700mL/10a	北海道農試	1	70	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				北海道根釧	1	62	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1000mL/10a	北海道農試	1	70	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
北海道根釧	1	62		<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
37	牧草 (チモシー) (茎葉) 平成 6 年度	イソプロピルアミン塩 液剤(41%) 500mL/10a 1 回散布 播種同時処理	北海道農試	0 1	— 91	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	
			北海道根釧 農試	0 1	— 62	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 0.02	<0.02 0.02	
				1	91	0.03	0.03	0.07	0.06	
			700mL/10a	北海道農試	1	62	<0.02	<0.02	0.03	0.03
				北海道根釧	1	62	<0.02	<0.02	0.03	0.03
			1000mL/10a	北海道農試	1	91	0.04	0.04	0.06	0.06
北海道根釧	1	62		<0.02	<0.02	0.10	0.10			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 3	牧草(イネ科 牧草) (露地) (茎葉) 平成15年	アゾホム塩液剤 (41%) 1000mL/10a 2回散布 (更新・造成前 全面1回、播種 当日全面1回)	日植調 十勝試験地	0 2	— 75	<0.02 0.12	<0.02 0.11	<0.02 0.14	<0.02 0.14
			日植調 岩手試験地	0 2	— 89	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
日産 4	牧草(マメ科 牧草) (露地) (茎葉) 平成15年	アゾホム塩液剤 (41%) 1000mL/10a 2回散布 (更新・造成前 全面1回、播種 当日全面1回)	日植調 十勝試験地	0 2	— 75	<0.02 0.05	<0.02 0.05	<0.02 0.09	<0.02 0.08
			日植調 岩手試験地	0 2	— 87	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)残留農薬研究所	日産化学工業(株) 生物科学研究所		
日産 36	牧草 (イネ科牧 草) (露地) (植物体全 体) 平成22年	カリウム塩液剤 (48%) 1000mL/10a 3回散布 (耕起前1回、 耕起整地後1 回、 播種当日1回)	日植調 十勝試験地	0 3	— 71	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			岩手県 農業研究 センター畜産研	0 3	— 280	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
日産 37	牧草 (マメ科牧 草) (露地) (植物体全 体) 平成22年	カリウム塩液剤 (48%) 1000mL/10a 3回散布 (耕起前1回、 耕起整地後1 回、 播種当日1回)	日植調 十勝試験地	0 3	— 71	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
			岩手県 農業研究 センター畜産研	0 3	— 280	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
						(財)残留農薬研究所			
日産 42	ソルガム (露地) (植物体全 体) 平成22年	カリウム塩液剤 (48%) 500mL/10a 2回散布 (耕起前1回 は種後出芽前 1回)	長野県 畜産試験場	0 2	— 110	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	—	—
			鹿児島県 農業開発総 合センター 畜産試験場	0 2	— 113	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	—	—

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本モンサント株式会社にある。

資料 番号	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						グリホサート		グリホサート	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						(財)日本食品 分析センター			
日 産 43	飼料用 さとうきび (露地) (茎葉) 平成 26 年	カリウム塩液剤 (48%) 1000mL/10a 4 回散布 (植付前)	農業・食品 産業技術総 合研究機構 九州沖縄農 業研究センター 種子島試験 地(鹿児島)	0 4	— 175	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	—	—
			沖縄県畜産 研究センター (沖縄)	0 4	— 175	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	—	—